レポート課題

佐倉仙汰郎

一回目の講義で、資格やプログラミングの話を聞いた後自分でもいろいろと調べてみた。まず思ったのは種類が多すぎる。講義で説明されていたのはプログラミングにかかわるものや情報技術者試験についてだったが、色々調べてみるとAWSの資格だったり、言語一つ一つに資格があるようだった。ただ求人情報を見てみると実際に資格を必須条件にしているところは少なく、どちらかというと経験を必須にしているところが多い。実際に社会人になってからとる方も多いみたいなので私の目標として学部生のうちに基本情報技術者試験を合格することを目標として決めた。

二回目の講義の研究内容は非常に興味深かった。特に手を鏡で見てブラシで触角の錯覚をおこさせる実験によって脳の錯覚を体で体験することができた。実際に受けてみると鏡で隠された手ブラシで触られると、左手がすごい敏感になった感覚になり触られた感覚が電気が流れたような感覚になった。鏡に映っている自分の手が実際のもう一つの手のように錯覚して予想外の触角に体がうまく反応できていなかったのだと思う。ほかの実験も非常に面白かった。例えば、腕をクロスして指を組んで相手に指定された指を動かす実験。最初はうまく指が動かず指定されたものとはほかの指が動くことがあったが慣れてくるとうまく動くようになる。これは脳がすぐに順応してくれているのだと思う。しかしこれの面白いところは個人差が非常に大きかったところである。私は少しやったらほぼミスなくできるようになったが、ペアでやっている人はかなり錯覚に惑わされている様子だった。

私がこれらの実験を体験してみて思ったのは視覚は非常に強力な情報であるということである。自分が体験したもののほぼすべては視覚から得られた情報と触角の錯覚だった。目で鏡を見るから鏡の中の手が自分のものと錯覚するわけで、錯覚を起こすものは視覚である。腕をクロスさせた実験も同じで、腕をクロスすることで、右手が左に、左手が右になることで錯覚が起きたのだと思う。その証拠に指定された指を触ってもらうことにより情報が視覚だけだったものが触角の情報も加わり、よりやりやすくなった。つまり身体の錯覚は知覚情報が限られているときに発生するのではないかと思う。またその知覚情報の中でも視覚がとても強いのだ考察する。